日本YMCA同盟

THE YMCA

The Young Men's Christian Association News

9

No.849 2025

2025年9月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日　第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003　東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640　Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／田口 努　編集人／横山 由利亜

OPINION

分断の世界の中で、「みつかる。つながる。よくなっていく。」

――第14回日本YMCA同盟協議会（6/21-22）基調講演より――

世界YMCA同盟総主事 カルロス・サンヴィー（トーゴ出身）

昨日、日本で参加した礼拝で、私の母国トーゴでも馴染みのある讃美歌が歌われました。トーゴでこの歌は「苦痛に耐えきれなくなったとき、癒しを見出だせる場所がある」という「救い」をテーマとした歌詞になっています。私には日本語はわかりませんが、私は皆さんとつながっていると実感しました。と同時に、「日本のYMCAとは何なのか」「そもそもYMCAとは何者なのか」という問いが沸き起こってきたのです。

日本のYMCAの皆さん、Who are you? あなたは誰ですか。

日本のYMCAは、ウクライナの避難者を快く受け入れてくれました。パレスチナにも募金をし、祈祷会も行って心からの支援をしています。世界YMCAはとても感謝しています。また私は、日本で宗教の違いによる衝突が起きたという報道を聴いたことがありません。皆さんはキリスト教を基盤としながらも、宗教の違いを越えて地域社会と調和し、共に活動しています。

今朝、この会場に展示されたジョー・オダネルの原爆写真展を見ました。中でも「焼き場に立つ少年」と題された、幼い弟の遺体を背負って火葬場に立つ少年の写真は、内臓をえぐられるほどに私の心に深く突き刺さりました。80年前の、あのような惨禍の後、日本のYMCAは被爆者と共に平和運動を推進してきました。皆さんは憎しみの連鎖に陥ることなく、二度と悲劇が起こらないようにと行動してきました。世界は今、その姿勢に学ばねばなりません。あさって私は広島に行きます。日本被団協の方にも会う予定です。原爆の脅威をよく知り、核兵器廃絶に向けて共に歩みたいと思っています。

同時に日本のYMCAは、過去の過ちと向き合い、歴史について語り、国際交流活動を続けています。たとえば日本には韓国YMCAがあります。両国の悲しい歴史を越えて加盟関係を保ち、交流を続けていることを私たちは高く評価しています。こうした日本のYMCAのアイデンティティーは、分断する世界の中で重要だと思っています。

今、世界にはいくつもの分断があります。ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ、東アジアの歴史的緊張など。国家間の対立だけではありません。富裕層と貧困層、男性と女性など、地域社会にもさまざまな分断があります。その中でYMCAは、苦しむ人の声を聴き、癒しをもたらす存在でなければなりません。

日本のYMCAは、「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに掲げています。このスローガンを聞いて私が思い浮かべたのは、イエスの衣服に触れることで病気が治ったという、聖書の奇跡の物語です。12年間も病に苦しんでいた女性がイエスと出会い、イエスとつながることで癒されたのです。私たちYMCAも、出会った人々が癒しのエネルギーを感じられるような存在でなければなりません。世界は傷つき、癒しを必要としています。私たちは最も疎外された人々と出会い、抑圧された人の声を聴き、つながり、支え合うことによって希望をもたらす。イエスの愛と奉仕の精神を体現することによって、世界を変革（Transform）していく存在であるべきです。これが、私の考える「みつかる。つながる。よくなっていく。」であり、分断された世界に癒しをもたらす、YMCAの役割です。日本の皆さん、どうかそのアイデンティティーを大切にしてください。そして力を発揮してください。YMCAは大きな家族のようなものです。一人で解決できない問題も、皆で共有すれば力になります。世界が直面する課題は深刻ですが、共に手を携えて、歩んでいきましょう。（文責・編集部）

＊帰国後、カルロス総主事から日本のYMCA宛てにメッセージが届きました。上記の講演後、広島、東京、横浜、大阪YMCAを訪れた感想と、日本への期待がつづられています。

メッセージはこちら▶

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。https://www.ymcajapan.org/

中面へ

地域の一歩が 世界を変える

「世界YMCA Vision2030」

世界YMCAのカルロス・サンヴィー総主事とラズバン・サス氏が6月下旬に来日。「日本YMCA同盟協議会（6月21日～22日、@YMCA東山荘）」に参加したほか、東京、横浜、大阪、広島の各YMCAを訪問し、各地で講演や交流会が行われました。

世界YMCAで「Vision2030」の推進を担当しているラズバン氏は、あらためてその詳細を紹介するとともに、「日々の地域YMCAの活動は、世界とつながっている」とし、共に世界に変革をもたらそうと呼びかけました。

同盟協議会後、カルロス総主事とラズバン氏は東京、横浜、大阪、広島YMCAを訪問。広島では平和記念資料館を見学し、昨年ノーベル平和賞を受賞した「日本被団協」の箕牧智之さんと佐久間邦彦さんから被爆証言も聴きました。

世界YMCAラズバン氏が来日講演

ラズバン・サス氏
世界YMCA 政策責任者（Head of Strategy & Policy）
ルーマニア出身

2022年の世界大会で採択された「世界YMCA Vision2030」は、2019年から3年におよぶ協議を経て作られたもので、創史以来のYMCA理念を現代社会における行動目標として表しています。「すべての人が調和し、人と、社会と、自然とともに生きる世界（Our vision is a world where every person lives in harmony with self, with society and with creation.）」を土台とし、「4つの柱（となる領域）」と「12の目標」によって構成されています（▼右図）。

「Vision2030」はSDGsとの整合も図り、17の目標のうち12の目標をカバーしています。いずれもYMCAが日々、地域社会のニーズに応じて取り組んでいる事業領域ですが、「Vision2030」ではそれをより現代の課題に応えるものとしてコミュニティーに変革をもたらすと同時に、グローバルな連帯を通して、世界を変革していくことを目指しています。

「4つの柱」を一つずつ見ていきます。

1つ目の「コミュニティーウェルビーイング」は、YMCAが永年取り組んできた「精神、知性、身体の調和のとれた成長」をもっと世界に広げようとするものです。まずはYMCA内でスタッフや会員の健康を徹底し、それを地域に拡げ、さらに政策提言も行って世界のウェルビーイングを目指します。

2つ目は「やりがいのある仕事と雇用環境の創造」。特に若い世代がやりがいのある仕事に従事できるよう、必要な教育などを行います。AIの進化などで先の見通せない時代ですが、だからこそ変化する時代にも適応できる教育が必要です。日本は学校を運営する世界でも数少ないYMCAとして期待されています。

3番目は「持続可能な地球のために」。YMCAは環境保護団体ではありませんが、すべての事業に環境教育の要素を組み込むなど、意識を高めることはできます。また「誰一人取り残さない」という立場から、グリーン経済への移行によって生活困難となる人が出ないよう配慮します。自ら環境に配慮した団体となり、地域のお手本を目指します。

4番目は「公平な世界の実現のために」。YMCAはいつの時代も、平和で安全な場となるよう、すべての人の尊厳を守り、多様で、公平で、包括的でなければなりません。同時にYMCAに集う若者が、平和を築く人となるよう育くむことも重要です。

2030年まであと5年。しかし今世界は分断が進み、政治も文化も環境も危機に陥っています。何より各国で排外的な政党が台頭し、NGOの活動に反対する政府も出ていることはショッキングです。「インクルージョン（包括性）」という言葉を使っただけでリスクが生じる事例も見聞きします。

さらにこの風潮が、テクノロジーによって増幅されています。ソーシャルメディアの進歩は良い面もありますが、それによる社会の溝の深まりは深刻です。若者は特にその影響を受けやすく、自分の関心事しか表示されない「フィルターバブル」の中で、気づかぬうちに物事の一面だけを見て育っています。ルーマニアの学校でも「多様性や包括性には価値がない」とそのテーマの授業を受けたがらない生徒が出ていると嘆いている教師がいました。YMCAのように多様な人たちの権利を認め、誰も取り残さない社会を目指そうとする運動体は、以前より劣勢にあると言わざるを得ません。

しかしだからこそ私たちはこの危機下で行動しなければなりません。YMCAは世界120の国と地域にあり、各地で信頼され、影響力をもっています。それぞれが「Vision2030」に沿って日々活動し、つながりを広げていくことは、世界を変える力になります。日本の皆さんは平和を大切にし、地域のウェルビーイングに貢献しています。ぜひそれを発信し、世界の仲間と一緒に歩んでいきましょう。私たちは未来の世代のために、地球規模のミッションを遂行しているのです。

参加者の声

世界とのつながりを実感

大阪YMCAユース委員会委員
ユースボランティアリーダーOG
宮前 瞳さん

世界YMCAのラズバン氏から直接「Vision2030」についてお話を伺えたことは貴重な体験となりました。私は学生時代、YMCAで野外活動などのユースボランティアリーダーをして、卒業後は保育教諭として働きながら「大阪YMCAユース委員会」の委員をしています。昨年度できた新しい委員会で、ユースボランティアリーダーや日本語学校の留学生など、さまざまな委員と一緒に、ユースのニーズ調査をしたり、ユースが集う場を企画していますが、今回のお話を聞いて「もっとたくさんのユースと出会い、語り合い、繋がり、輪を広げていきたい」とモチベーションが高まりました。

カルロス総主事が語られた、「過去の過ちを受け止めながらも、今できる最善を目指して歩み続ける」という言葉も印象に残りました。YMCAの委員として、また地域の保育教諭としても、自分ができる最善に取り組んで、世界の仲間と共にコミュニティウェルビーイングを目指したいと思いました。

平和へ、仲間の輪 広げて

広島YMCA
国際ユースリーダー
服部 唯音さん

私は今回、カルロス総主事とラズバン氏が広島を訪れた際、広島YMCAの平和活動について紹介する役を担いました。まずは、日本被団協の箕牧智之さんと佐久間邦彦さんによる被爆証言があり、その後で私たちが、被団協と共に活動してきたYMCAの歩みをお話したのですが、お二人ともとても真剣に、親身になって聞いてくださいました。カルロス総主事は「被爆の苦しみや憎しみを越えて平和を目指してきた広島の声を、世界に発信してほしい」と私たちに語られました。

今年の「広島YMCAユースピースセミナー（8/5-9開催）」には、インドや台湾など国内外から約50人が参加します。核兵器の脅威を伝えるとともに、さまざまなアクティビティーをとおして交流を深め、平和を目指す仲間の輪を広げていきたい。そして、こうした活動を「Vision2030」の一つとして世界のYMCAと共有し、つながりを広げながら、活性化させていきたいと思います。

VISION 2030

「世界YMCA Vision2030」は、2022年に採択された、世界中のYMCA共通のビジョンと行動指針です。「4つの柱（活動領域）と3つの目標」で構成され、SDGsとも整合を図り、社会の課題解決を目指しています。

3つの目標とは、

――①まずはYMCA内で変革を起こし、②地域の変革へと広げ、③世界の変革へと発展させていく――というもので、世界のYMCAに連なる6500万人がそれぞれに一歩を踏み出し、その変革を地域へ、そして世界へと拡げていくことによって世界を変えていくという、実践的な目標です。

＊簡易訳です。オリジナル全文はこちらから ▶

4つの柱（活動領域）と12の目標

Community Well-being

1 コミュニティーウェルビーイング

すべての人が、精神、知性、身体のバランスの取れた成長ができるよう、地域全体のウェルビーイングを目指す。

❶YMCAの変革
スタッフとボランティアは、心身の健康を心がけ、より良い生き方を目指す
▼
❷地域の変革
精神・知性・身体的に調和のとれた成長ができる居場所を作る
▼
❸世界の変革
政策提言などによって、虐待など危険にさらされている青少年を守る

Meaningful Work

2 やりがいのある仕事と雇用環境の創造

すべての若者が学び、価値のある有意義な仕事に従事し、持続可能な生活を築けるよう、公正かつ公平な教育、トレーニング、雇用、起業の機会を創出し、拡大し、提唱していく。

❶YMCAの変革
YMCAスタッフに価値のある雇用と生涯学習の機会を提供する
▼
❷地域の変革
若者と地域社会が「将来の仕事」に向けてより良い準備ができるよう支援する
▼
❸世界の変革
すべての人に、やりがいのある有意義な仕事を促進する政策を提言する

Sustainable Planet

3 持続可能な地球のために

気候変動に対する若者の高い危機意識と積極的な発言から、若者主導による持続可能な地球のための解決策を推進し、気候変動に取り組む運動体になることを目指す。

❶YMCAの変革
YMCAを気候変動に配慮した施設にする
▼
❷地域の変革
YMCAのプログラムに気候変動に関する教育的要素を組み込む
▼
❸世界の変革
グリーン経済への移行において、誰一人取り残されないよう配慮して実行する

Just World

4 公正な世界の実現のために

正義、平和、公正を求め、すべての人の人権を守ろうと努める若者やコミュニティーと共に歩む。組織的な差別、不公平、不正などあらゆる種類の人種差別の課題においてグローバルな発信者となることを目指す。

❶YMCAの変革
YMCAが、誰にとっても安全な居場所になるように行動する
▼
❷地域の変革
多様性、公平性、包括性のある平和な社会を構築していく若者を育てる
▼
❸世界の変革
すべての人、特に社会から取り残された人の尊厳が守られるよう、声を挙げていく

世界YMCA大都市会議（WUN）～「変革と連帯へ」大阪でカンファレンス

6月29日から7月4日まで、世界24の国と地域からYMCAの総主事やCEOなど102名が大阪に集い、YMCA World Urban Network（世界YMCA大都市会議、略称「WUN」）の年次カンファレンスが開催されました。WUNは、都市化の進行に伴い都市部に社会課題が集中する中で、都市YMCAの役割を国際的に協議する場として始まり、今年で49年の歴史を誇ります。日本での開催は、1979年に東京および御殿場のYMCA東山荘で行われた第1回以来、2回目となります。

今回のテーマは「Transformation（変革）」。気候危機、貧困、戦争、教育格差など、不確実性が高まる時代にあって、YMCAがどう変革し、地域に根ざした希望を創出できるかが議論の中心となりました。専門コンサルタントによるリーダーシップトレーニングを軸に、各YMCAの実践や挑戦の共有が行われました。

挑戦事例の発表では、気候変動に対応した農業（ガーナ、ケニア）、若者のメンタルヘルス支援（ボゴタ）、AIの活用（シンシナティ）、国境を越えたコミュニティ形成（メキシコ、サンディエゴ）など、各地域のYMCAが直面する課題と、その中での革新的な取り組みが共有されました。

また、大阪YMCAが運営する大阪府立水都国際高等学校の国際バカロレアコース生徒との対話セッションでは、生徒たちが英語で率直な質問を投げかけ、そのやりとりをAIで分析するという先進的な試みが行われ、参加者に新たな気づきをもたらしました。さらに、大阪・関西万博会場では「多様性と教育によるウェルビーイングの実現」をテーマにしたパネルディスカッションも開催され、カナダ、ブラジル、ルーマニアのYMCAや水都国際高校を事例に、世界に向けてYMCAのメッセージが発信されました。

今なお、政治的制約や財政難に直面するYMCAも世界には少なくありません。しかし、WUNの場は、困難な現実の中で希望を絶やさず、地域に仕えるリーダーたちが支え合い、安心して語り合える“セーフスペース”でもあります。今回、大阪から発信されたのは、YMCAの国際ネットワークが現実の困難を乗り越える具体的な力であり、都市YMCAの連帯こそが地域社会の変革、さらには世界平和への道を拓くものであるという強いメッセージでした。

大阪YMCA 総主事　小川 健一郎
WUN Executive Committee Member

Together, We Stand Strong ～共に困難に立ち向かう

上記「WUN」のため各国総主事が来日。各地で講演会が行われました。

パレスチナの惨状を伝える

パレスチナで長く活動をしている東エルサレムYMCAのピーター・ナシル総主事が6月末に来日。その前後に東京、横浜のYMCAを訪ねたほか、広島では平和記念公園と資料館を見学しました。

東京では7月7日、日本YMCA同盟と日本YWCAの共催で講演会「今、パレスチナで何が起きているのか」を開催（会場：東京YWCA）。ガザの人道危機状況だけでなくヨルダン川西岸でもイスラエルの入植者たちにより苛烈な暴力がふるわれている実態を報告するとともに、西岸地区で東エルサレムYMCAが行っている、被害者へのトラウマケアやリハビリテーション、就業支援や女性支援等のコミュニティサービスについて紹介されました。

講演後は日本側の応答者とも対話し、日本にいる私たちには何ができるのかに関する意見交換も行われました。

また講演の前日には、学生YMCAメンバーなど若い世代との交流も行われ、学生たちからのさまざまな質問に答えるとともに、今後パレスチナと日本のユースが交流していけるよう検討していくことが約束されました。

「パレスチナのことを忘れないでいてほしい」というピーター総主事の呼びかけに応え、日本のYMCAは今後も、パレスチナでの正義と公正を伴う平和の実現を目指して、「オリーブの木キャンペーン」をはじめとする支援活動や交流活動を続けていきます。

日本YMCA同盟　田附 和久

▼ パレスチナの支援活動等はこちら
https://www.ymcajapan.org/ymca-works-for-peace-20231007/

ウクライナで、日本で、支援活動続く

（写真右から）日本YMCA同盟田口努総主事／ウクライナYMCAビクトール総主事／日本YMCA同盟 横山由利亜／東京YMCA星野太郎総主事

「戦争の深刻な影響が続いているなかで、ウクライナYMCAは若者と地域社会を支援する使命を果たし続けています。特に、子どもたちが教育や遊びの機会を通してできるだけ“普通の子ども時代”を送れるように、そして、若い人たちが戦争によって夢をあきらめず、将来に向けて希望を見いだせるよう注力しています。これからも、世界中のYMCAと共に、困難の状況に対して強く立ち向かい続けます。」来日したウクライナYMCA総主事のビクトール・セルブロウ氏は、6月27日、東京YMCAで報告会を行い、このように語りました。ウクライナYMCAは国内に約20カ所の拠点を持ち、350万人いるとされるウクライナ国内の避難民への支援、子どもや若者へのリフレッシュキャンプや教育プログラム、心理的なサポートなどを続けています。

日本では、4回目の暑い夏を迎え、ウクライナ避難民の多くが「まさか戦争がこれほど長引くとは思わなかった」と話します。最近では、避難民の相談ごともすぐには解決できないもの、生活の根幹にかかわることや大きな決断を迫るものなども増えてきています。たとえば、中学生や高校生で来日避難して来た子どもたちは、いま将来の進学、進路の決定を迫られる年齢を迎えていますが、日本では日本語能力や経済的な理由で思うような将来選択ができない、男の子はウクライナに帰国したら徴兵されるといったジレンマに直面し、苦悩しています。

私たちYMCAは、ウクライナYMCAとも引き続き連帯し、人間本来の持つレジリエンスを一人一人が発揮できるよう、粘り強く支援を継続していきます。

日本YMCA同盟　横山 由利亜